

[成果情報名] 水稲の有機栽培における収益性分析
[要 約] 全算入生産費から求めた水稲有機栽培における持続可能な販売価格は、60kg 当たり約 30,000 円である。大規模経営では、有機栽培に減農薬減化学肥料栽培や慣行栽培などを組み合わせたりリスク分散が必要。
[キーワード] 環境保全型農業、有機農業、有機稲作、経営モデル、調査個票
[担 当] 静岡農林技研・企画経営部・経営研究
[連絡先] 電話 0538-36-1553、電子メール agrikikaku@pref.shizuoka.lg.jp
[区 分] 経営
[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

有機稲作に新たに参入を志向する担い手農家に対して、栽培及び経営管理の指標を提供するため、農林水産省が実施した「環境保全型農業（稲作）推進農家の経営分析調査」の調査個票を分析し、有機稲作における持続可能な経営の姿を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 農林水産省が平成 15 年に実施した「環境保全型農業（稲作）推進農家の経営分析調査」では、環境保全型稲作の栽培形態として、有機 JAS の認定を受けた有機栽培 71 戸、無農薬無化学肥料栽培 73 戸、無農薬栽培 49 戸、無化学肥料栽培 66 戸、減農薬減化学肥料栽培 80 戸、計 339 戸の調査が行われているが、このうち前二者計 144 戸を社会通念上の有機栽培として抽出し、分析を行った。
- 2 有機栽培の取組みを水稲の経営規模別にみると、上位階層ほど取組面積は拡大するが、経営全体からみたウェイトは遞減する。特に上位 3 階層では環境保全型稲作を経営の中心としながらも、有機栽培のウェイトを 30%以下に抑え、リスク回避と経営の多様化を図っている（表 1）。
- 3 有機栽培は慣行栽培に比べて経営費は増加するが、販売価格の有利性に支えられ、10a あたり所得は 21,978 円から 57,058 円へと倍増する。しかし、労働時間の増加により家族労働費も含めた全算入生産費が 60kg 当たり 29,945 円となり、販売価格を 4,398 円下回っている。現状の収量水準を前提とするならば、持続可能な販売価格は 60kg 当たり約 30,000 円である（表 2）。
- 4 これを経営規模別にみると、200-300a 層、1000-1500a 層及び 1500a 以上層の 3 階層が、販売価格が生産費を上回っている。中でも 1000-1500a 層は 1500a 以上層に比べて雇用労賃が低く、収益性は最も高い。その生産費は 60kg 当たり 20,660 円であり、経営合理化によるコスト削減の可能性を示唆している（図 1）。
- 5 有機栽培の導入に伴い慣行栽培で発揮されていた規模の経済性が損なわれている。雇用を導入した大規模経営では、除草作業の増加が雇用労賃に反映し、経営費を押し上げている（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

農林水産省の調査は平成 14 年産のものであり、現在までのタイムラグを考慮する必要がある。

[具体的データ]

表1 水稻の経営規模別経営概況

階級 区分	事例数 (戸)	労働力			水稻作付 面積 (a)	うち環境保全型		うち有機栽培	
		家族(人)	雇用(人)	計(人)		面積(a)	比率(%)	面積(a)	比率(%)
50a 未満	15	1.4	0.1	1.5	35	33	94	30	88
50-100	37	1.8	0.3	2.1	67	59	88	55	82
100-150	19	2.1	0.6	2.7	126	111	88	102	81
150-200	9	2.2	0.4	2.7	171	171	100	125	73
200-300	8	2.9	0.1	3.0	217	145	67	125	58
300-500	18	2.1	0.7	2.8	382	246	64	170	45
500-700	10	2.0	0.2	2.2	596	436	73	262	44
700-1000	12	2.8	0.8	3.5	830	570	69	245	30
1000-1500	7	2.6	1.1	3.7	1,250	844	68	329	26
1500a 以上	9	2.8	1.8	4.6	1,866	1,007	54	408	22
平均	144	2.1	0.5	2.6	396	265	67	147	41

表2 有機栽培と慣行栽培との比較

区分		有機栽培	慣行栽培	対比	
10 a 当たり	収量	kg	428	507	84
	粗収益	円	173,813	124,539	140
	経営費	円	119,701	105,507	113
	所得	円	57,058	21,978	260
	所得率	%	32.3	17.2	-
	労働時間	H	52.9	33.2	159
60 kg 当たり	物財費	円	14,918	11,288	132
	労働費	円	11,120	5,893	189
	費用合計	円	26,037	17,181	152
	副産物価額	円	332	332	100
	生産費	円	25,705	16,849	153
	支払利子・地代	円	1,140	917	124
	自己資本利子・地代	円	3,100	2,615	119
	全算入生産費	円	29,945	20,381	147
	販売価格	円	25,547	15,378	166
	利潤	円	-4,398	-5,002	

注) 農林水産省「環境保全型農業(稲作)推進農家の経営分析」(H15.2公表)の調査個票から算出した。本調査で把握していない項目については、労働費は家族及び雇用とも時間1,500円で算出、自作地地代は10a当たり20,000円として田の借地化率から求めた、自己資本利子はH14米生産費調査の階層規模別数字を適用。

研究課題名：環境保全型

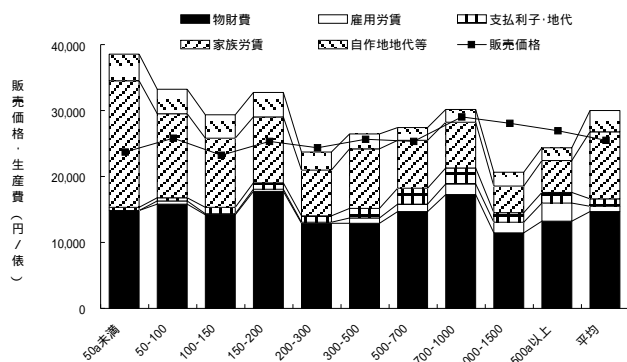


図1 経営規模別経営収支(有機栽培)

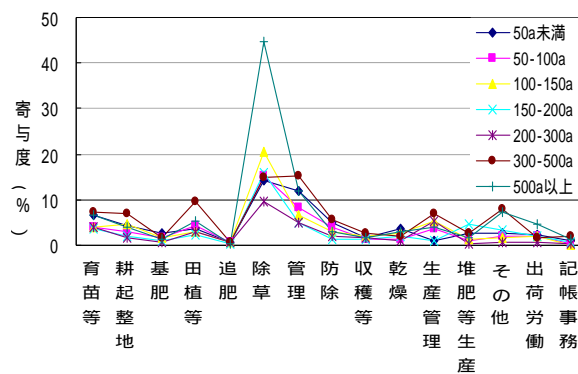


図2 労働時間の増加に及ぼす各作業の寄与度

農業の経営評価

予算区分：県単

研究期間：2007～2009年度

研究担当者：中川孝俊